

死亡率

男性 1位

女性 2位

人口動態統計による
がん死亡データ (2016年)

症状が出てきた段階では
手遅れの場合も少なく
ありません!!

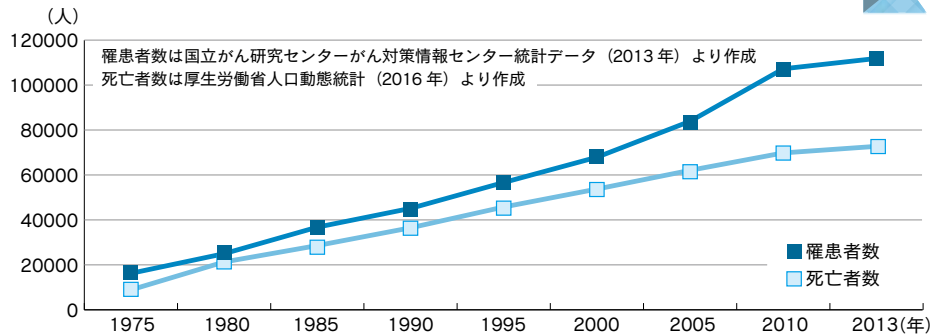
肺がん

医療の進歩で「がん=死」というイメージがなくなりつつある中で、例外なのが肺がんです。見つけにくいうえ、進行が早く、転移もしやすいため、難治がんの一つに挙げられています。40歳以上の人と喫煙者は、肺がんを早期発見するため検診を毎年受けましょう。

肺がんの罹患者数・死亡者数の推移

肺がんは日本人の死亡原因の第1位、死亡率では男性1位・女性2位で、肺がんにかかる人・死亡する人が増えています。

グラフをみると罹患者数と死亡者数にあまり差がないのは、肺がんが難治がんであることを示しています。



こんな症状はありませんか？

なかなか治らない咳、痰が多い、胸痛、息切れ、声のかすれ、呼吸困難、疲れやすい、食欲不振、体重減少…。これらは肺がんの症状ですが、かぜなどの病気と区別がつきにくいので、がんを見過ごす原因となっています。

このような症状に不安を感じたときは、医療機関の呼吸器科で検査を受け、早めの診断を受けることが大切です。日本対がん協会では病巣が2cm以下で発見されれば手術が可能、1cm以下なら生存率はさらに高いとしています。

肺がんの主な要因 喫煙、受動喫煙

肺がんの主な症状 早期は無症状。進行すると治りにくい咳、血痰、胸痛、息切れ

肺がんの検査

胸部X線検査

X線撮影で肺全体を見る

検診で行われる基本的な検査です。胸部にX線を照射して撮影し、がんの有無を調べます。ただし、がんが骨や血管と重なって映るような場所にあると、がんを認識できないことがあります。



喀痰細胞診

痰で肺の入口のがんを調べる

主に喫煙者が対象となる基本的な検査です。痰を採取してがん細胞の有無を調べ、肺の入口の太い気管支にできるがんを見つけるのに有効です。喫煙者などのリスクの高い人は、胸部X線検査などとあわせて受けましょう。



胸部CT検査

より小さながんを見つける

X線を人体に360度方向から照射し、コンピュータを使って胸部を輪切りにした状態の画像(断層画像)にします。胸部X線検査よりも精度が高く、骨や血管に隠れた部分にあるがんや、小さながんも発見できますが、被ばく量が多いなどのリスクもあります。



肺がんの リスクファクターは喫煙

肺がんの男性患者の約70%、女性患者の約20%は、喫煙が原因で発症したという研究結果があります。たばこには約70種類の発がん物質が含まれており、喫煙本数が多く、喫煙年数が長いほど、肺がんにかかりやすいといわれています。

1日に吸うたばこの本数と喫煙年数をかけた「ブリンクマン指数(喫煙指数)」では、その数値が400を超えると肺がん発症の危険性が高くなり、600以上は高度危険群とされます。

たばこを吸わない人も受動喫煙によって発がん物質を体内に取り込み、肺がんの危険にさらされます。受動喫煙により、毎年約2,500人が肺がんで死亡していると推計されています。